

報告

2018 年度九州支部大会報告

原 隆幸 (九州支部長) ^A

2018年9月29日(土)に長崎大学経済学部(片淵キャンパス)にて、グローバル人材育成教育学会第5回九州支部大会が開催された。台風の影響で一部参加できなかった会員等もいたが、雨にもかかわらず九州だけでなく、関東や関西からの参加もあり、34名の出席があった。今回の大会テーマは「グローバル人材育成と大学のブランド力向上」であった。

12:45からの開始式では大会実行委員長である古村由美子先生(長崎大学)の挨拶と岡田裕正先生(長崎大学経済学部長)による会場挨拶から始まった。その後、大六野耕作先生(明治大学副学長)による「グローバル人材育成にかかる費用をどうマネージするか?」と題する45分間の基調講演が行われた。当日は6ページにもわたる追加資料が配布され、多くの情報を共有することができた。

続いて、異文化対応力育成研究専門部会のメンバー

による「異文化対応力の測定と海外研修プログラムでの利用」と題するシンポジウムが開催された。小野博先生(西日本大学など)をコーディネーターに迎え、青柳達也先生(佐賀大学)、工藤俊郎(大阪体育大学)、佐々木有紀(福岡大学)による発表が行われた。小野先生から趣旨説明が行われた後、青柳先生は、「異文化対応能力とは」と題し、これまで異文化対応力測定研究部会が行ってきた海外における異文化対応力の定義や測定するためのテストに関する説明が行われた。また、同研究会で参考にしたByram(1997)のIntercultural Communicative Competence(ICC)モデルに基づき、日本人向け異文化対応力測定ツールとなるIntercultural Competence(相互文化的能力)尺度作成に関して紹介がなされた。次に工藤先生からは、「異文化対応力測定尺度作成の試み」と題し、研究会でByram(1997)の質問項目を元に独自の質問紙を作成し2018年3月から調査を始めたこと、海外留学等の前後に実施し、その変化を検出することを目指してい

A: 鹿児島大学

るとの説明があった。その上で、Byram (1997, 2008) を元に 48 項目からなる 4 肢択一の質問紙を作成し、異文化体験前用 Pre 版と体験後用 Post 版を設けたことが説明された。これらを実施し 220 名分の解答を用いて因子分析し、その結果が示された。実際に使用した Pre 版と体験後用 Post 版の質問紙と因子分析の結果も配布され、参加者は資料を見ながら話をうかがうことができた。最後に佐々木先生は「福岡大学の海外研修プログラムと異文化対応力」と題し、福岡大学における海外研修の位置付けやプログラムの紹介が行われた。さらに、福岡大学で行っている独自の語学力測定の結果なども話された。各発表者が要領よくまとめて発表したため、その後の質疑応答に十分な時間を割くことができた。

その後、展示業者紹介と休憩に続き、一般発表と学生発表が行われた。一般発表は二本あり、岡田佳子先生（長崎大学）による「大学生が考える『グローバル人材』とは何か―留学生との共修・協働を経た学生のインタビュー分析より―」と題する発表がなされた。発表では留学生との共修・協働を経験した学生たちが「グローバル人材」についてどのような考えを持つようになったのかを学生の「経験されたカリキュラム」に着眼し、フォーカスグループインタビューの分析が紹介された。次に橋田力先生（神戸大学）による「神戸大学の国際教育プログラムとグローバル人材育成（KUPES を例に）」と題する発表がなされた。神戸大学 EU エキスパート人材育成プログラム（KUPES）は、3 学部・研究科を横断して設計された学際的カリキュラムをもとに、専任の外国人教員が英語による専門の授業を行う、国立大学としては画期的な国際教育プログラムであるとの紹介があった。その後、部局横断型の教育プログラムによる課題として 2 つを挙げた。

1 つ目は、欧州の文教政策の主軸である複文化対応能力の測定と育成、特に日本人学生の特性を十分に考慮した異文化対応能力の測定・評価方法を開発し、導入することにより、グローバル人材育成に向けた教育改善を進めることが可能になる。2 つ目は海外インターンシップの機会をプログラムに組み込むことにより、グローバル人材育成に向けた教育を充実させ、国際的なキャリア形成にもつなげることができる、とのことであった。

学生発表は三本あり、松原大修さん（名城大学）による「大学で行う新しいグローバル人材育成」と題する発表では、大学の授業を受けていく中で感じた疑問から、大学の 1、2 年生から専門知識を学べる機会を多く設けることを主張した。次に森山巳央さん（長崎大学）による「1 人の外国人としての異文化理解能力」と題する発表では、自身が経験したフィリピン大学での短期海外研修、中国でのインターンシップ、台湾での長期留学を通して身に付けた異文化理解に関する能力について話した。最後に青山明日奈さん（西九州大学）による「グローバル人材を目指すための留学と英語学習の取組み」と題する発表では、大学で受けた短期英語集中講座 GCE (Global Communication English)、その後に参加したオーストラリアでのインターンシップとホームステイを通しての経験を話した。また、オーストラリアと日本の現状を比較しての意見とグローバル人材育成の重要性が高まっていく日本の英語教育で、現在の日本の英語学習を今一度見直す必要があるとの考えが述べられた。

大会終了後の情報交換会でも長崎の郷土料理をいただきながら、活発な意見交換、情報交換が行われた。

受付日 2019 年 2 月 5 日、受理日 2019 年 3 月 16 日